

1	第三回古文単語テスト	組		番 号		名 前		得 点	

(20-04-27～05-08)

一、次の傍線部の意味として適当なものを、後の選択肢の中から選んで符号で答えなさい。【選択問題】

①空薫き物にしみたる几帳にうち掛けたる袴など、いみじうたづきなし。

「ア 空になった部屋 イ わざとらしく匂わす線香 ウ あてにならない物エ どこからともなく匂ってくるようにたいした香」

②少将情けなう恨めしけれども、人もこそ見れと空おそろしう思はれければ、急ぎこれをとつて懷に入れてぞ出でられける。

「ア たいそう恐れ多く イ たいそう恐ろしく ウ 何となく恐れ多く エ 何となく恐ろしく」

③世に語り伝ふること、まことはあいなきにや、多くはみな虚言なり。

「ア 見間違い イ 記憶違い ウ うそ エ 聞き間違い」

④また異所にかぐや姫と申す人ぞおはしますらむ。

「ア 間違った場所 イ 別の場所 ウ 知らない所 エ 思った所」

⑤幣などわざとがまして、かの小桂も遣はす。

「ア 憎らしそうで イ 特別に心遣いしたようで ウ ことさらにいっていて エ もったいぶっていて」

⑥しばしありて、にはかにかい曇りて、雨になりぬ。

「ア 目の前が暗くなつ イ 真つ暗になつ ウ 急に暗くなつ エ 次第に曇つ」

⑦かかる末々のもよほしになん、なまはしたなきまで思ひ知らるる折も侍りける。

「ア 何ともやりきれない イ 少々みつともない ウ 何となくきまりが悪い エ むやみに間が悪い」

二、次の傍線部の現代語訳を、全文訳の文の空欄に補いなさい。【記述問題】

①火のほのぐらき方に向かつて、やはらこの刀を抜き出だし、

火の「 」ほうに向かつて、おもむろにこの刀を抜き出して、

②はぢがましく心憂きことのみありて、果ては許さぬ物ども押し取りて、

「 」嫌なことばかりあって、ついには許可もしていない物をいろいろ奪い取って、

③「今宵ぞ安き寝は寝べかんめる。」と、うちささめくも、忍びたれど、ほどなければ、ほの聞こゆ。

「今晚こそ安眠できそうです。」と、ひそひそ言うのも、こっそり言っているのだが、狭いので、「 」。

一	①		②		③		④		⑤		⑥		⑦	
二	①				②				③					

第三回古文単語テスト

解答

尚文

(20-04-27 ～ 05-08)

一、次の傍線部の意味として適当なものを、後の選択肢の中から選んで符号で答えなさい。【選択問題】

①空薫き物にしみたる几帳にうち掛けたる袴など、いみじうたづきなし。

「ア 空になった部屋 イ わざとらしく匂わす線香 ウ あてにならない物エ どこからともなく匂ってくるようにたいした香」

②少将情けなう恨めしけれども、人もこそ見れと空おそろしう思はれければ、急ぎこれをとつて懷に入れてぞ出でられける。

「ア たいそう恐れ多く イ たいそう恐ろしく ウ 何となく恐れ多く エ 何となく恐ろしく」

③世に語り伝ふること、まことはあいなきにや、多くはみな虚言なり。

「ア 見間違い イ 記憶違い ウ うそ エ 聞き間違い」

④また異所にかぐや姫と申す人ぞおはしますらむ。

「ア 間違った場所 イ 別の場所 ウ 知らない所 エ 思った所」

⑤幣などわざとがましくて、かの小桂も遣はす。

「ア 憎らしそうデ イ 特別に心遣いしたようデ ウ ことさらにいていて エ もったいぶっていて」

⑥しばしありて、にはかにかい曇りて、雨になりぬ。

「ア 目の前が暗くなつ イ 真つ暗になつ ウ 急に暗くなつ エ 次第に曇つ」

⑦かかる末々のもよほしになん、なまはしたなきまで思ひ知らるる折も侍りける。

「ア 何ともやりきれない イ 少々みつともない ウ 何となくきまりが悪い エ むやみに間が悪い」

二、次の傍線部の現代語訳を、全文訳の文の空欄に補いなさい。【記述問題】

①火のほのぐらき方に向かつて、やはらこの刀を抜き出だし、

火の「 」ほうに向かつて、おもむろにこの刀を抜き出して、

②はぢがましく心憂きことのみありて、果ては許さぬ物ども押し取りて、

「 」嫌なことばかりあつて、ついには許可もしていない物をいろいろ奪い取つて、

③「今宵ぞ安き寝は寝べかんめる。」と、うちささめくも、忍びたれど、ほどなければ、ほの聞こゆ。

「今晚こそ安眠できそうです。」と、ひそひそ言うのも、こっそり言っているのだが、狭いので、「 」。

一	①	エ	②	エ	③	ウ	④	イ	⑤	イ	⑥	ウ	⑦	ウ
二	①	薄暗い	②	恥ずかしいよ	③	かすかに聞こえる	うな							